



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

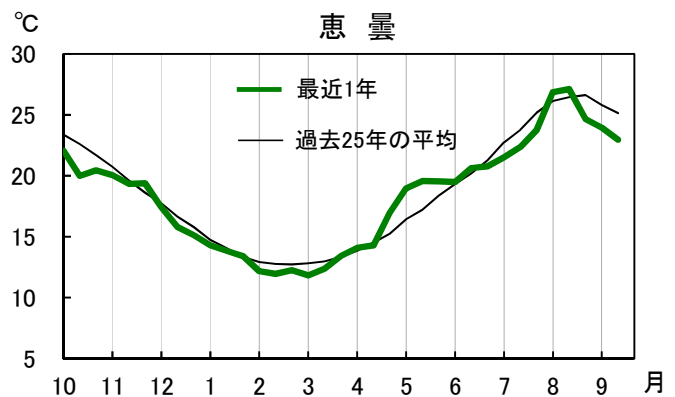
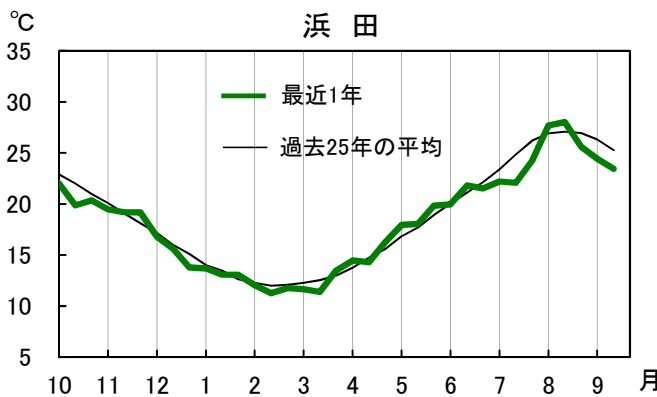
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《8～9月の海況》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	27.1℃	+0.1℃	平年並み
恵曇	26.2℃	-0.2℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも8月は上・中旬は「平年並み」でしたが、下旬に「やや低め」に転じ、9月に入っても低めの傾向が続き、中旬時点で「かなり低め」で経過しています。



《8月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は8.6トンで平年並みとなりました。全漁獲量の内、主体であるサバ類は98トンで平年を上回りましたが、マアジは87トンで平年の7割となりました。西郷、浦郷地区ではマイワシ、マアジ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ43.2トン、52.0トンで平年を上回りました。全漁獲量の内、西郷ではマイワシの漁獲量が2,317トンで平年の16倍、浦郷では1,574トンで平年の2.3倍となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の85%）の漁況で、スルメイカ（全体の15%）も混じり、1隻1航海当りの漁獲量は106kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ（全体のほぼ100%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は58kgで平年並みでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は9.9トンで、前年の9割でほぼ平年並みの水揚げとなりました。この時期漁獲の多いムシガレイは平年の9割で、アカムツは平年の1.5倍でした。その他、ケンサキイカは平年の6割、アナゴ類は平年の8割、ヤナギムシガレイは平年の1.6倍の水揚げでした。

【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は19トン、1隻1航海当りの漁獲量は861kgで前年、平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は17トン、1隻1航海当りの漁獲量は740kgで、平年を上回りました。銘柄「大」、「中大」を主体に、銘柄「大」が多く漁獲されています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.3トンで平年並みとなりました。全漁獲量でみると、主体となるシイラは47トンで平年の7割となりましたが、カワハギは1.8トンで平年並み、ヒラマサは2.2トンで平年の7.9倍となりました。

【定置網漁業】

石見地区ではその他のマグロ類、ヒラマサ、ブリ主体の漁況で、1統当りではマグロ類が平年並み、ヒラマサが6.9倍、ブリが3倍でしたが、その他の魚種では平年並みか平年を下回ったものも多く、全統の総漁獲量は53トンで平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、サバ類、ブリ主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の2.6倍、サバ類が21倍、ブリが1.9倍であり、全統の総漁獲量は163トンで平年を上回りました。隠岐地区ではサワラ類、サバ類、ブリ主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の3倍、サバ類が14倍、ブリが2.5倍であり、全統の総漁獲量は225トンで平年を上回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は21kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年を下回りました。全地区で漁獲の主体となったケンサキイカの漁況は、石見地区では平年並みでしたが、出雲・隠岐地区では平年を下回りました。

【平成 27 年 8 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、マアジ	205トン	134%	88%	8.6トン	156%	122%	○
	西郷	マイワシ、マアジ	3,886トン	121%	154%	43.2トン	106%	145%	◎
	浦郷	マアジ、ブリ	2,497トン	151%	187%	52.0トン	199%	219%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	10トン	14%	13%	106kg	35%	52%	▲
	西郷	ケンサキイカ	10トン	144%	55%	58kg	137%	92%	○
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ	149トン	92%	73%	10トン	92%	104%	○
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	23トン	83%	90%	586kg	85%	112%	○
しいら漬け	和江	シイラ	13トン	90%	69%	1.3トン	54%	98%	○
定置網 (大型)	浜田	その他のマグロ類、ブリ、ヒラマサ	28トン	105%	122%	1.9トン	133%	211%	◎
	美保関	サワラ類、ブリ、マアジ	87トン	211%	216%	1.0トン	226%	232%	◎
	浦郷	マアジ、サバ類	14トン	153%	112%	671kg	183%	122%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、その他のハタ類(クエ主体)	7トン	124%	45%	19kg	86%	59%	▲
	大社	ケンサキイカ、マアジ、カサゴ・メバル類	5トン	114%	70%	12kg	97%	77%	▲
	西郷	ケンサキイカ、その他の魚類(チカメキントキ主体)、カサゴ・メバル類	4トン	75%	33%	23kg	95%	79%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年9月17日

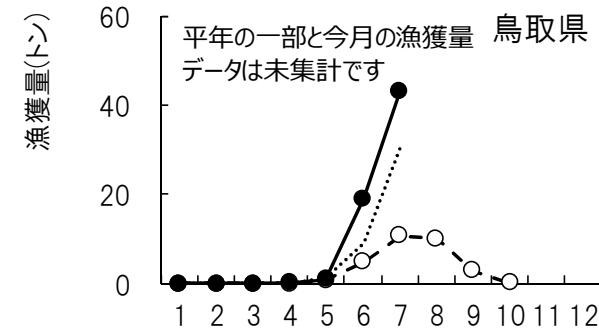
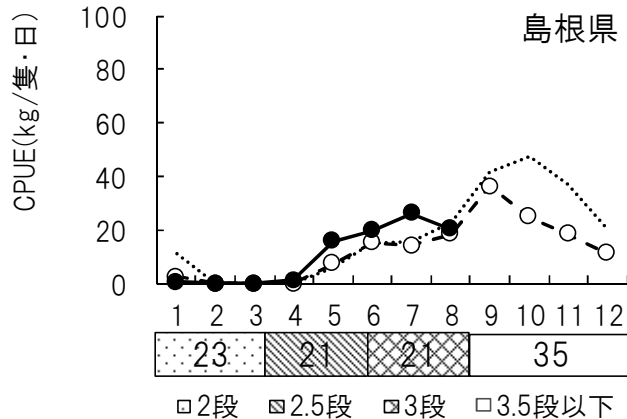
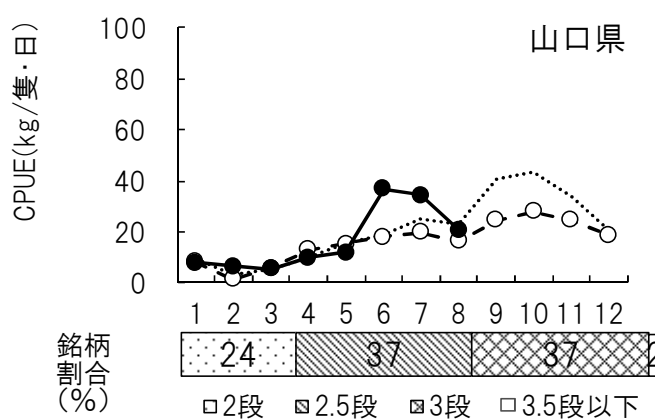
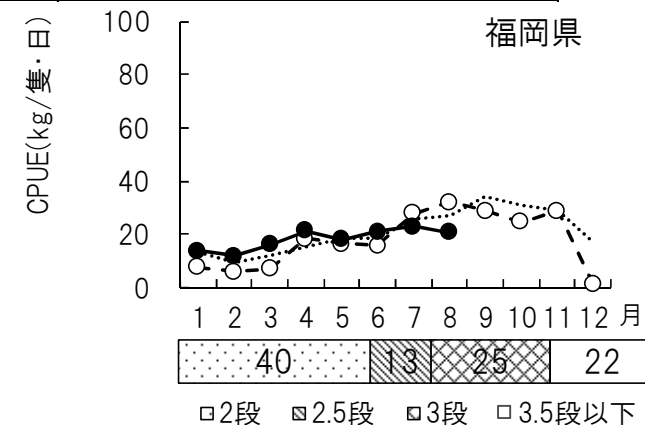
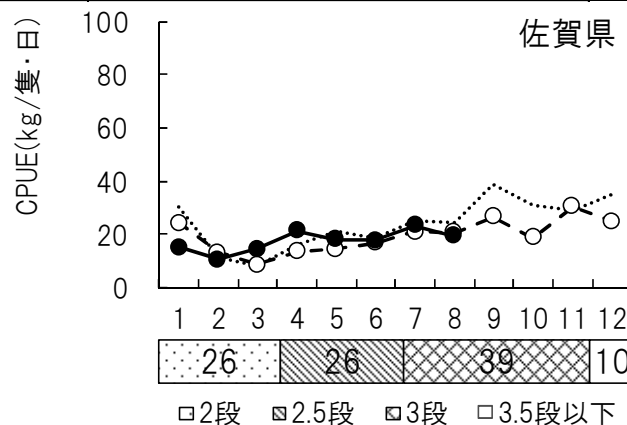
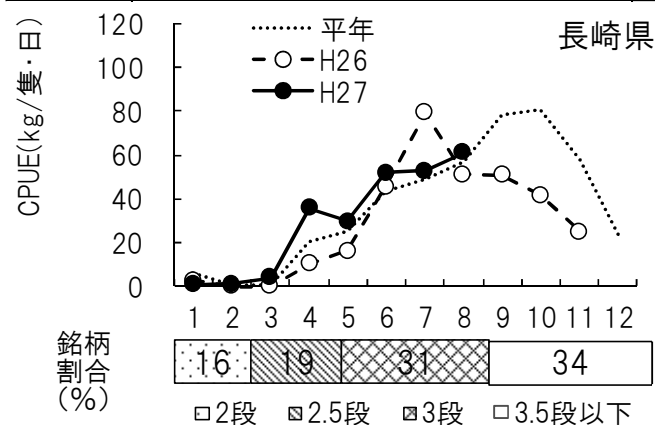
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：8月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県では平年並みでしたが、佐賀県～島根県は平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	対馬標本地区の漁獲量は前年を上回り(166%)、平年並み(105%)でした。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年を下回りました(前年比129%、平年比77%)。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比74%、平年比72%とやや低調でした。1月から8月までの累積漁獲量でみると、前年比136%、平年比108%となり、前年よりやや好調であるものの、平年並みとなりました。
山口県	代表2地区の漁獲量は前年並みで、平年を大きく下回りました(前年比96%、平年比46%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は48トンでした(前年比64%、平年比37%)。	鳥取県	7月までの水揚げ量は前年、平年を上回りました(前年比376%、平年比155%)。8月分の漁獲量については集計中です。



II:9月上旬の底層水温

長崎県	まだ五島西沖は観測していません。	佐賀県	壱岐水道の底水温は、23.1~24.2℃で 平年並み、対馬東海道の底水温は15.1 ~23.5℃で平年並みからかなり高めで した。	福岡県	沖合の底層は16~20℃台でやや低めか らやや高めとなっています
山口県	底層水温は7~22℃台で平年並みでし ました。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深 80~130mが10.1~19.5℃、それ以深が 3.6~7.8℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は16℃前後 で、先月より1℃上昇しました。

底層の水温分布図
 大きい数字:水温
 小さい数字:水深

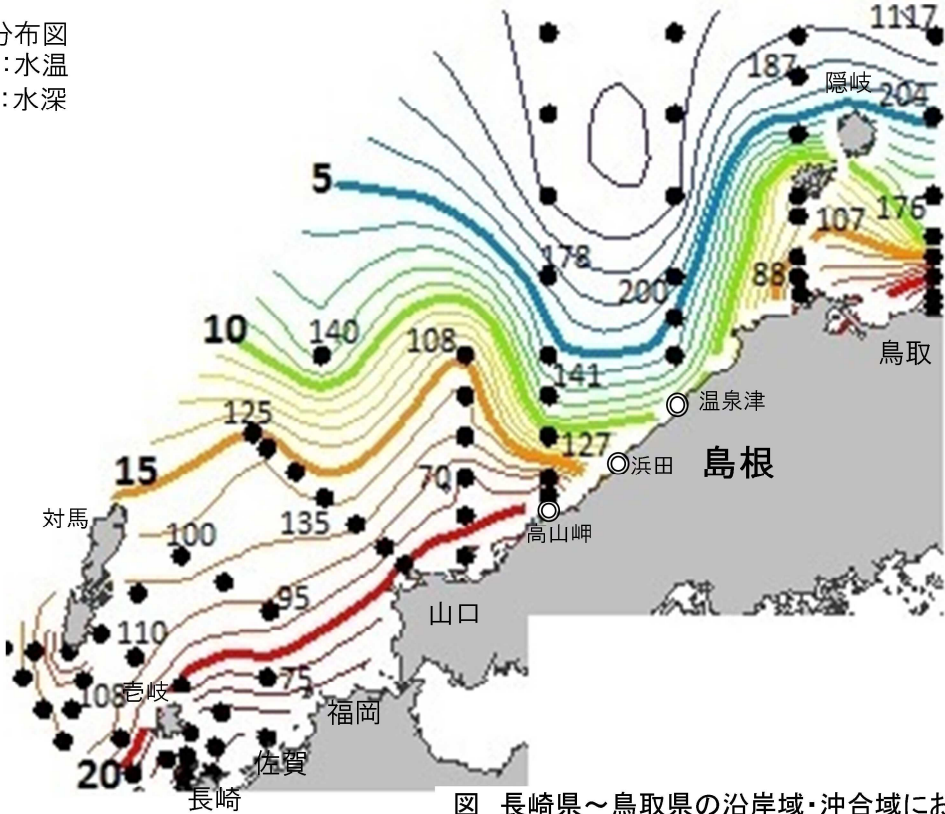


図 長崎県~鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図